

第一箇條之御返_江_請

一 元禄五壬申年二月十一日米子より出船、隱岐国
 嶋後福浦_江着岸、三月廿四日福浦より出船同廿六日
 朝五ツ時_ニ竹嶋之内いか嶋_与申所_江着岸仕様子
 見申候得者、鮑大分取上ヶ申様相見不審_ニ奉存、同廿七日
 朝濱田浦へ参申内_ニ唐船式艘相見申候、内一艘_者
 す_ヘ船一艘_者浮船_ニ居申候唐人三拾人計見_江申候
 右之浮船_ニ乗り此方之船より八九間程沖を通り大坂
 浦_与申所_ニ廻り申候、右之内兩人者陸_ニ残居申候所
 又小舟_ニ乗り参申候故此方之舟_ニ乗為申候_而
 何国之者_与相尋候得者一人ハ通辞_ニちやうせん國
 かわてんかわぐの者_与申候故此嶋之儀者元來日本ノ
 地_ニ従

御公方様代々拝領仕毎年渡海いたし候
 嶋_ニ而候所_ニ何とて其方共参候哉と相尋候得ハ此嶋より
 北_ニ当り嶋有之三年_ニ一度宛國主之用_ニて
 鮑取_ニ参候、國_元者_ニ一月廿一日_ニ類舟拾一艘_ニ而致
 出船難風_ニ逢五艘_ニ已上五拾三人乘此嶋三月
 廿三日_ニ流着此嶋之様子見申候得者鮑有之候間致
 逗留鮑取上ヶ候由申候、左候得者此嶋を早々罷立候
 様_ニ与申候得者船も少損シ候故造作仕調次第_ニ出船
 可仕候間其許御船是_江御す_ヘ可被成_ニ与申候得共
 此方_ニも舟をはする不申先人計陸_江上り見分
 仕候所兼_ニ此方より拝置候諸道具獮舟八艘見_江
 不申候_ニ付通辞_ヘ段々吟味仕候得者浦々_江廻し
 遣候由申候、先此方之船する申様_ニ与申候得共唐人者
 大勢此方_者纔_ニ武拾一人_ニ而御座候_ニ付無心元奉存
 竹嶋より三月廿七日之七ツ時_ニ出船仕申候、然とも
 何_ニ而茂印無御座候_而者如何_与奉存唐人之拝置候

串鮑少、笠壱ツ、網頭巾壱ツ、かうじ壱ツ取致
 出船四月朔日_ニ石州濱田浦_江着舟仕、夫より当四日_ニ
 雲州雲津浦迄參、翌五日之七ツ時分米子へ入津
 仕候、右之趣元禄五壬申年四月六日竹嶋渡海之船頭

味噌 玉

水主共口上_ニ申候、右唐人弓鉄炮所持不仕哉_与
御尋被為遊候、其節吟味仕候所_ニ惣_而武具之
類所持不仕候

第御二箇條之御返答

一 元禄六癸酉年二月下旬米子出船雲州雲津へ
着岸、三月初頃雲津より出船隱岐国嶋後福浦江
参着、四月十六日四ツ時福浦を出船同十七日八ツ時_ニ
竹嶋江_江参着仕候所_ニ唐人大分居申候付、陸へ上り
段々吟味仕候所不埒之申方_ニ付、頭と相見申候者
壱人下方之者老人已上兩人召連竹嶋を同十八日
八ツ時_ニ出船仕、同廿七日_ニ罷戻り申候而早速鳥取江
御注進申上候處_ニ、江戸_江御窺被為遊右兩人を
長崎_江被遣候、其後戌亥兩年渡海仕候得共
唐人大分居申候付所務不仕帰帆仕候

第御三箇條之御返答

一 竹嶋_ニ有之品々委細書付指上候様被為仰付候
_ニ付古來渡海之船頭水主共へ相尋候所_ニ見知候
物迄品々書留置候付此度左之通書付指上申候

木竹之類

一 五葉の松

一 梅檀木の色黒赤く

一 たいたら

実はくちなしの

しろきもの_ニ御座候

一 きわだ

一 椿

一 とが

一 檵

一 竹

一 まの竹

一 枝葉もみの葉の

一 桐

一 がび

一 にんしん

一 にんにく

一 ふき

一 めうが

一 うと

一 ゆり

一 ごほう

一 あおきは

一 ぐみ

一 いちご

一 いたどり

草之類

ことく木の色赤

一 辰砂岩ろくしやうのやうの物御座候得共

猶迄_ニ心懸申_ニ付此段者_既知不申候

一 彼地_ニ大河三筋御座候、水主共右之川_ニ而

手水遣申節嵐_ニ何方共なく宜香仕候

其外_ニも珍敷物も可有御座奉存候得共

深山二而山之内江者ふかく參かたき由申候

第御四箇條之御返答

一 竹嶋東西廣サ之儀竹木重り相知不申由并
嶋廻り者凡拾里余茂可有御座哉与水主共申候
絵図之儀者別紙ニ仕指上申候

第御五箇條之御返答

一 竹嶋ニみち魚之外獸類有之哉与御尋被
為遊候、左之通書付指上申候

鳥獸之類

一 みち魚	一 ねこ	一 鼠
一 山雀	一 莺	一 あな鳥
一 鳩	一 ひよ鳥	一 かわらひわ
一 四十雀	一 かもめ	一 鶲
一 なぢこ	一 つばめ	一 鷺
一 くまたか	其外鷹類	

第御六箇條之御返答

一 唐人相渡リ候時節与伯耆国より相渡候時節与
違候哉与御尋被為遊候、古來此方より者二三月ニ
渡海七月上旬ニ帰帆仕候、年々渡海之節
吟味仕見申候所ニ此方より彼嶋小屋之内ニ廻置候
諸道具獵船等少も取散候様子相見江不申候間
唐人共前々渡海仕候儀者無御座与奉存候
但元禄五年壬申年三月ニ唐人初而渡海仕候

様ニ奉存候、然共唐人渡海候時節ハ不奉存候

第御七箇條之御返答

一 伯耆国より竹嶋迄渡海之数里并竹嶋より
朝鮮江渡海之数里御尋被為遊候、米子より
竹嶋へ者百四五拾里竹嶋より朝鮮へ者四拾里程
可有御座候様ニ水主共申候

御座候

濱目三ツ柳村より隱岐国嶋後へ三十五六里有之竹嶋より朝鮮

山ヲ見渡候所少遠ク相見候故四十里程と申上候
右之通此度御尋被為遊ニ付、古來書留置候
趣相殘候水主江相尋書付指上申候、已上

伯州米子町人

大谷九右衛門

享保九甲辰年閏四月三日

伯州米子町人

村川市兵衛